

氷ノ山スキー



この氷ノ山2Dayは私にとって氷ノ山連峰と名付
けてもいいほど北から南までものすごく中身の濃い
Mountaineering Ski になった。
Golden Week の Northern Alps の後立山連峰
の白馬連峰 Mountaineering Ski のシムミューション
が少しは仕上がってきたように思えます

太陽に喜びを感じ、大自然に喜びを感じ、春の遊びの
舞台となる偉大な残雪に喜びを感じ、自然の醸し出す偉
大な大気に包まれ、まだ人足の少なからず真っ白のペー
ルに包まれた我が目を疑うイリュージョンワールドの氷
ノ山。
その白き山にも小さな春のおとずれが・・・幾月も冷
たい白いシートに包まれながらもたくましく息づいてい
る、その計り知れぬ生命の尊さを感じる。

2000.4/8-9 天候>晴れ メンバー>大塚賢一 45才、木倉博 37才

装備

山スキー装備一式(ピッケル、クロー、爪付きストック、アイゼン、シール)、カメラ、ビデオカメラ、テルモス、ゴアレイン上下、フリース上下、サングラス、手袋(替え)、アンダー(替え)、水1L、バーナー、ラーメン2つ、行動食、エマージェンシーキット、修理道具、1/25000地図、コンパス、高度計、タオルなど、私(ツェルト、ツェルトマット、シュラフカバー)、・・・GWのシュミレートで約13kg。

コース

8日(土)・・・シールトレーニング

ヤマメ茶屋(6:30)---山頂---ヤマメ茶屋。

大屋温泉で疲れをいやして、大屋から養父町~氷ノ山国際スキー場。夜は氷ノ山国際スキー場に車の横でキャンプ泊。

9日(日)・・・装備変更トレーニング

流れ尾根(7:00)---山頂---氷ノ山越え---鉢伏---氷ノ山国際スキー場。

概略

今年は例年になく雪が多くやまめ茶屋のスタート地点からのシール歩行も出来、ブッシュも少なく氷ノ山最大の北壁もいつになくスムーズにクリア出来ましたが、やはり流れ尾根のスキーザック固定での急

斜面のガレ場登りは半端ではありませんでした。テント泊ではピーンと張りつめた氷点下での星空には真上に北斗七星がものすごく大きくプラネタリウムさながらのダイヤを散りばめたようでした。

この2日間快晴の下で遊ばせてもらった地球に感謝一杯です。

8日(土) 快晴

6:15 680 m 5度 ヤマメ茶屋スタート
シール装着

天気は快晴、とても暖かく雪は例年になく非常に多く雪溶けの水が轟音を出して沢に流れている。

8:25 1025 m 6度 小休止

加藤アドベンチャースクールの入山地点であるが、この地点はもっと大人数のほうが面白いコースなので今日は、オーソドックスな雪山ルートのコースをとる事にする。

8:45 1045 m 6度 林道よりはずれて山の中にルートファインディング。

ここからコースは斜度もすごく緩やかでるん気分です。汗もかくことなく、小鳥たちのさえずりを聞きながらまるでメルヘンの世界にタイムスリップしたかのような世界である。

1185 m 杉林のティンバーライン ブナ林へ



雪解け水の轟音とともに春の目ざめ



ひたすらシール登行が続く



三の丸~氷ノ山の稜線

入る

ブナ林に入るといちどに視界が開けて青空がさわやかである。ブナの木陰と雪とがモノトーンの世界をかもし出してくれている。

どこを見ても同じような景色なので絶えず方向を確認しながら進んでいく。

10:45 1450 m 三の丸到着 シール脱着

少し雲が出てきて風も冷たくなってきたがほどよく暖まったからだにいい刺激である。

それにしても雪が多いのでプッシュらしきものはほとんど見あたらず、雪の大海原の素晴らしい光景である。夏のちしま笹の群生からは想像だけに絶する。

鳥取方面から2パーティーの山スキーヤーが登ってくる、なんとこの方面からだとリフト利用で1時間で来れるそうだ・・・自然を満喫する間もないが。

11:20 1448 m 大休止 ラーメンタイム

三の丸~氷ノ山の稜線沿いの尾根は適度のアップダウンありで面白いコースである。三の丸からもシールを着けようか?、着けるじまいか?いつも悩む面白いところで、今回は外して行ったが滑ってはカニ走法、逆八の字走法でとなかなかに変化にとんで良いトレーニングになる。

いつもの大きな杉の木の下で、山頂へと続く素晴らしい斜面を見ながらの昼食はいつもなが



テントサイトで氷ノ山に乾杯

ら大満足である。

12:30 1510 m 4度 山頂到着。

ざっと10人ほどが来ていた、素晴らしい天候に恵まれたこの氷ノ山には驚沢すぎる人数である。

明日に行くブン回しルートの雪の付き加減を確かめる、じゅうぶん過ぎるほどに雪は豊富である。

さあ、いま来たルートの滑降開始である。今日はヤマメ茶屋方面からの山スキーヤーは全く来ておらず行き帰りとも大雪原の中で同化したような錯覚にとらわれる。

14:36 1000 m 坂の谷入り口到着

帰りのルートはこの氷ノ山に何度となく滑り込んでいるが、一度も同じ入山地点に帰った試しがない。今日もルンルンで滑り込んでいると見覚えのあるような無いような杉林の中に突入してしまい、高度はどんどん下がってくるわ、一体どこにたどり着くのやらと思ひしや、何と夏道の入山地点である坂の谷入り口にドンピシャで下りてきた。一体何処でまちがえたのやら？

15:20 ヤマメ茶屋到着



流れ尾根主稜



新芽を抱き春を待つブナ

早々に車を走らせ、大屋スキー場の若杉温泉に入りに行く。小さいながらも貸し切りでゆったりと今日一日の身体の疲れをいやす。

17:15 氷ノ山国際スキー場到着

大屋の町から峠越えで9号線に抜けていく。

まだまだ十分に滑降可能であるが、スキー場は閉鎖されている。

車もキャンプ場までは除雪がされていなく、レストハウスの正面に止めることにする。テント設営はその真横の登行リフトの最上部の人工芝の格好のいい場所を見つける。ロケーションは東尾根、流れ尾根がみえて最高である。

食事豪華？にチャンポン鍋で今日一日をふりかえり「氷ノ山に乾杯！」である。

9日(日)晴

5:00 -2度 起床

昨夜は満点の星空の下での素晴らしいキャンプであった。夜、何をガサガサ音がするのかと思えば食事の残飯をあさりにきたタヌキであった。冬場あまり何も食してないらしくやせ細っていた。菓子をばらまいてやると律儀に一つ一つ頬張っていた。我々人間は食したいと



ブッシュ帯を四つん這いで登る

きに食べ、なんと幸せであろうかと思うしだいである。

6:00 日の出

昨日の雪解けの水たまりが全て凍っていた。マイナス2度である。今日のコースは氷ノ山最大の北壁を滑らねばならないので、少々不安がよぎる、完全に山頂ではアイスパーンであろう。

テント撤収し、食事も済ませて出発を1時間遅らせることにする。今日も天気は快晴なので山頂にたどり着く頃は雪も多少ゆるんでいるだろう。

7:00 770 m 0度 ゲレンデ直登 アイゼン装着

スキー引っ張りでクラスト状態のゲレンデにほどよく12本アイゼンが食い込む。しかし770 mから1030 mのリフト直下の直登なのでいきなりシャツ一枚である。

7:50 1030 m 2度 最終リフト地点到着



おお~っと危ない!

ここからブッシュ帯に入っていくのだが雪が多いせいで昨年とは大違いに視界が開けている。

8:15 1130 m 5度 枝尾根分岐到着

枝尾根最後の2 mの雪壁を登ってやっと流れ尾根主尾根にたどり着く。

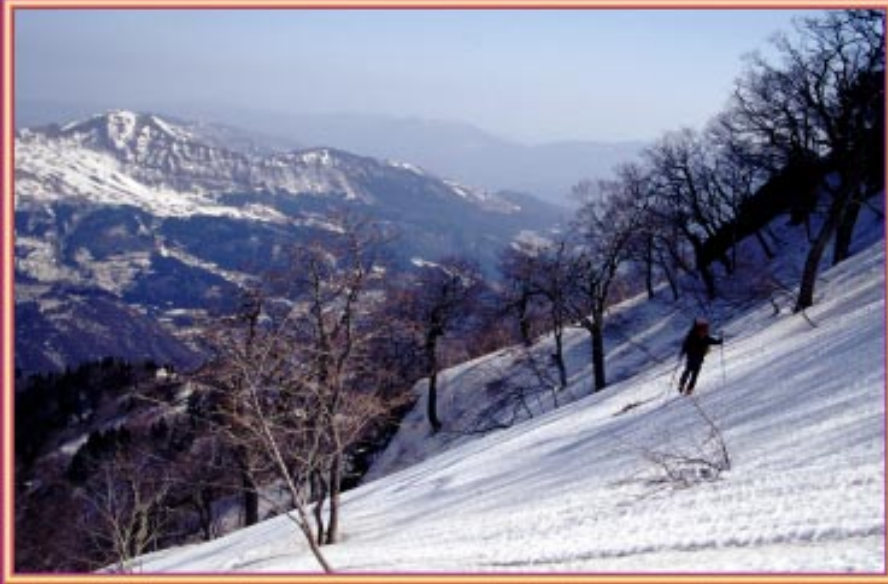
8:35 1200 m 装備変更 ザック固定

主尾根に入りスキー場方面の雪尻を進んで行くとすぐに30 mほどの大クレバスに出くわし装備変更でスキーザック固定にして山側のブッシュ帯に入っていく。

9:15 1390 m 10度 装備変更 スキー引っ張り

やっとのことでブッシュ帯抜け出すが、スキー固定ではとんでもなく体力を消耗する。

このブッシュ帯は斜度は軽く50度以上はあるので四つん這いで登り



山頂までもう一息

であるが、重さはもちろんのことスキー板の先端が木々に阻まれてなかなか前に進ませてくれないのである。

しかし、やっと視界が開けて右手方面の遠くには氷ノ山越えの小屋が確認できる、また山頂西壁の急斜面にブナのそびえ立つ景色の美しさにはいつもながら感動させられるものがある。

9:50 1510 m 風速 10 m 山頂到着 装備変更 スキー

西斜面に心地よくアイゼンを食い込ませながら山頂に到着。さすがに風が強く10 m以上は吹いている、気温は高くなっているが体感気温は朝より寒く感じる。

山頂には誰も強風のためか小屋に入っているのかあまり人影がない。何を隠そう私は小屋はなぜかうっと暗くてうっとうしくおもしろいあまり入ったことがないのがある。

10:10 装備変更完了 スキー

気温も10度は回っているので雪もクラスト気味ではあるが少しは緩んでいるので、早速にスキー装備にしてザックをきつく身体に固定し



北壁滑降

て北壁に突入である。

10:15 北壁突入成功

甌岩眼前で3回ターンを切り斜滑降で無事にトラバース終了。これも昨年と違い木々が少ないためにあっけない終了であった、こんなにも雪の量によって違うものかと痛感させられるものであった。

10:50 1245 m 10度 氷ノ山越え小屋到着 装備変更 スキー引っ張り

ここからの氷ノ山の景色はやはり素晴らしいものである。「これぞ氷ノ山だ!」と言ったかんじである。しかしここまでのスキーはとんでもない雪尻付近を幾度も通りすぎるので油断は禁物である。

11:17 装備変更 スキーザック固定

氷ノ山越え小屋からは赤倉山1332 mまでスキー引っ張りである。そこから少し滑り込めばガレ場下降になるのでここでスキーザック固定

で最終ピーク地点の1264 mまで担ぎである。

11:45 1264 m 最終ピーク到着 昼食タイム

天気予報では「午後から曇りがちになる」その通りになり分厚い雲がはびこりだしてきた。

最後の氷ノ山の景色を堪能しながらのラーメンタイムはいつもながら最高である。

12:15 大休止終了 装備変更 スキー

1170 m付近まで滑り込んでコースを東にとり再び北に滑り込んで行けば鉢伏スキー場に合流である。4年前に最終樹林帯を抜け出して自分の転倒で雪崩れを起こしまくってしまったとkろい出てきたが、このたびは雄叫びとともに3回ターンを切り爽快に滑り込んだ。

13:01 強風 馬の背手前到着 装備変更 スキーザック固定

ここからはずっと歩きである。特に木道の階段は非常に疲れる。パラグライダーで飛び立つには絶好のロケーションである。振り返れば小さな氷ノ山山頂からのルートが遙かかなたに見える。

13:25 ゲレンデの雪に到着 装備変更 スキー

やっとのことで最終スキーである。早速に鉢高原のスキー場に合流して雪のあるところまでどんどん下降していく。

14:05 登行リフト最終地点 装備変更 スキーザック固定

さあ、ここから6kmの道のりの氷ノ山国際スキー場までの登りの歩



北西斜面

きである。これが結構疲れるのであるが、麓は春の訪れで道ばたにも花がちらほらと咲いている、またウグイスも鳴き乱れネコヤナギも衣をまとい、目に写るものすべてがすがすがしい雰囲気である。疲れもあるのだが昨日、今日の余韻にひたりながら、頭の中が走馬燈のように色々が出来事がよみがえってくる。

15:00 氷ノ山国際スキー場到着。

後記

一日目はビデオカメラをしきりの撮っていたのだが、二日目の朝にバッテリーが切れてしまい北壁滑降や雪尻付近の滑降が撮れなかったのが残念である。しかしその余分に一眼レフ、テープレコーダーも装備しているのでいつもながら非常に忙しい山スキーであった。

この二日間良い天候に恵まれてものすごく良い経験ができたことに感謝するしだいである。

Natural Sun

希望の光を浴びて・・・

ほら、そこに

Nature Worldが・・・